

# 木造の弱点を強化、 強靭なオリジナル接合金具。

## 接合部

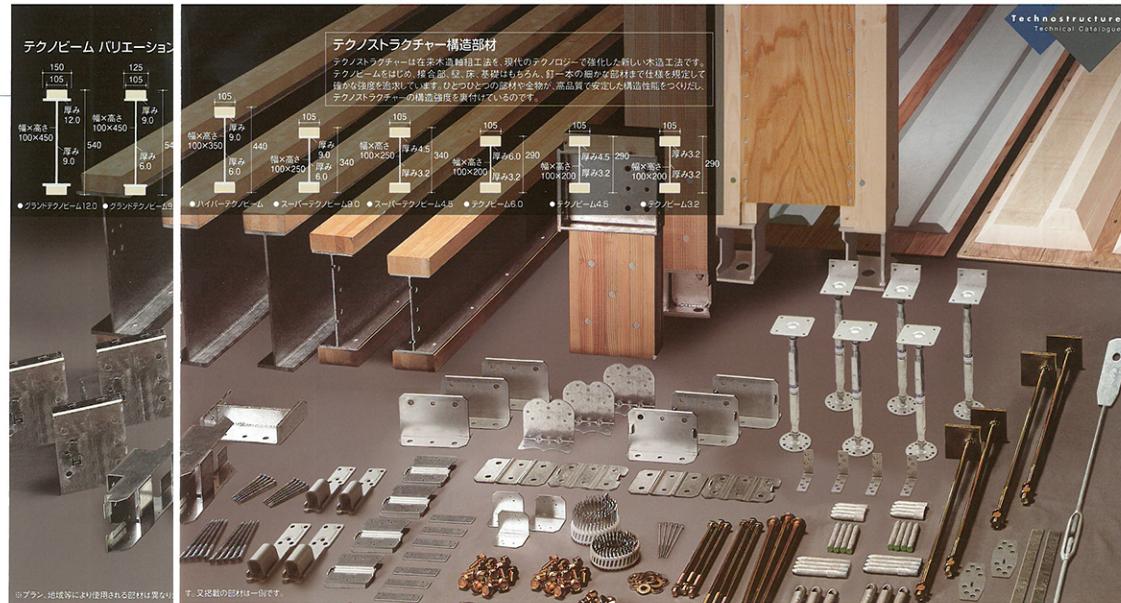
- テクノ接合金具
- テクノバー／バリエーション
- ボルト接合
- ドリフトピン接合

## ■接合部の弱点を強化するテクノ接合金具

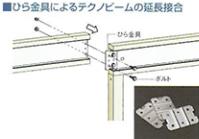
一般的な木の家は、木の材料を切り欠いて

部材と部材を接合します。そのため、接合部の木材は部分的に細くなってしまい、その箇所が地震等で割れて建物の倒壊を招く例も多く見られました。

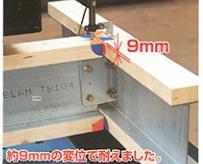
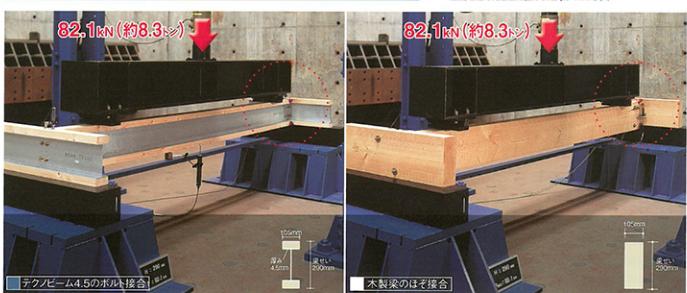
テクノストラクチャーでは、木材の切り欠きができるだけ減らし、素材の力を引き出す金具接合仕様を採用。施工者によって強度にバラツキが出ることも少なく、接合部での安定した高強度を実現しました。の中でも特に優れた強度を誇る梁のボルト接合・柱のドリフトピン接合について下記で詳しく説明しています。



## ボルトによる梁と梁の接合とその強度



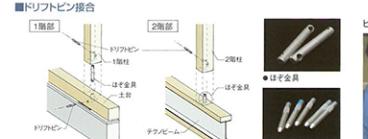
## ▼ボルト接合の強度を、木製梁のほどぞ接合と比較



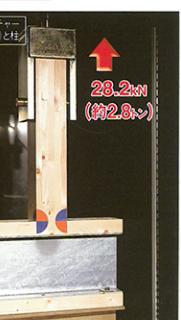
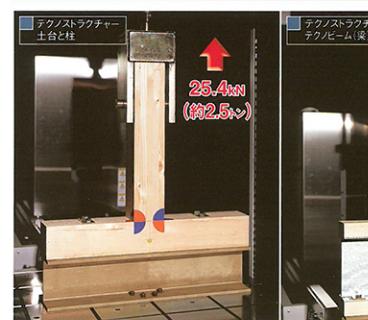
## 実験③ 梁-梁接合部の強度実験



## ドリフトピンによる柱と土台、梁と柱の接合とその強度



## ▼ドリフトピン接合による柱引き抜き強度を実証



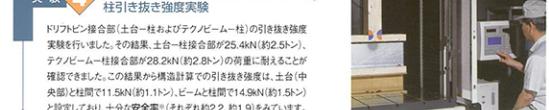
## 実験④ 安全率

安全率とは「部材が持つ限界の強さ」と、「その部材が安全に使用できる範囲の強さ」の比をいいます。

$$\text{安全率} = \frac{\text{部材が持つ限界の強さ}}{\text{その部材が安全に使用できる範囲の強さ}}$$

例えば、安全率が「1.5」であれば1.5倍の余裕を見て設計されていることになります。

## 実験④ ドリフトピン接合部 柱引き抜き強度実験



※商品改良のため、仕様・外観は予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

テクノストラクチャーでは主要構造部の接合に、  
オリジナルの接合金具を使用することにより  
木材の切り欠きを最小限にし、接合部の安定した强度を発揮しています。  
これにより、材質本来の强度を最大限活かした頑丈な構造体を  
実現すると同時に施工のスピード化、品質の安定化も実現しました。

